

外国にルーツを持つ子どもたちの学習を滞らせないように

多文化共生セミナー 東京事務局
信田将臣

信日將自



写真上2つは荒川校、下は杉並校の授業の様子。
接触を減らした形で授業を行っている。
写真提供＝多文化共生センター東京

6月
フリースクールの開校に向けて

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の解除を受け、フリースクールは、6月になつて今年度の授業を開始することができました。開校があつた、感染予防のためにどのよいう対策を取つていくのかを教科の指導を担当する講師と話し合い、授業を行う際に気をつけるべき点について、いろいろ意見を出し合つて検討しました。そこでは、生徒の学習環境と教卓との間隔の取り方から、牛両側に接近する場合の講師の立ち位置などの文字指導の際に、きちんと書けているかを、接觸をなるべく減らした形で確認する方法の検討まで、昨年度は気にする必要がさほどないかった点についても、事前に考慮する時間を十分に取りました。

板書については、講師が問題を出され、生徒がホワイトボードに答えを出

シヤく招業が如き

このように形で、現在は授業を継続でできていますが、新型コロナウイルス感染拡大の悪化が懸念されるなか、心配なこともあります。ひとつに、フリースクールでの受け入れ人数に関して、教室内における生徒間や生徒と講師との間の安全な間隔、また換気のことを考慮すると、今の時

ラーニングアート教室については、予約制での教室の再開やオンライン授業を計画しており、今年度は7月に予定していた「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイドンス」が開催できなかつたことから、多言語版の資料をHP上で公開して高校受験の情報提供を行っています。

外國にルーツを持つ子どもたちの学びが滞ることが無ないように、これが

点ですでに限界に近い人数に達しているため、これから新たな入室相談がある場合に受け入れることが難しいという問題があります。

また、外出規制などの措置により登校できない状態が再び起つた場合に、生徒たちの学習をどこまでサポートするかの問題が浮上する可能性があります。

応を取りました。が、それぞれの学習意図は難しく、終わらせたものを用意するのレベルに合わせたものを用意するのではございませんでした。これで、今後は、この問題を踏まえ、今後の方針を立てたいと思います。

多文化共生センター東京

<https://tabunka.or.jp/> info@tabunka.or.jp

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を充実させることをミッションに活動している。主に、日本で高校進学を目指す子どもたちが通うことができる「たぶんかフリースクール」を荒川区と杉並区で運営するほか、荒川区内の小中学校や都立高校に通う児童生徒を対象とした日本語指導事業の実施や、ボランティアによる学習支援教室の開催など、子どもたちが学習できる環境と、安心できる居場所づくりに取り組む。教育相談や進学ガイダンスの実施を通して、教育に関する情報提供も随時実施。

14 ネットワーク 2020/8

ネットワーク 2020/8 13